

平成23年度第6回岡山県地方独立行政法人評価委員会の議事録

- 1 日 時 平成23年7月26日(水) 13:00~15:30
 2 場 所 光荘3Fパブリゾン1
 3 出席委員 末長委員長、小田委員、清水委員、内富専門委員、田淵専門委員
 4 議 事

- (1) 平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果について
 質疑の冒頭に事務局から評価結果(素案)について説明が行われ、続いて委員からの質疑が行われた。以下はその概要である。

委員発言要旨	事務局発言要旨
<p>評価の冒頭の法人の概要の業務のところに医療、研究、研修とありました。</p> <p>医療について本当に申し分ないと思うのですが、研究に関して、例えば11ページのところで、評価パブリケーション実績数や研究費の獲得の額ですとか、もう少し教えて頂ければと思いますし、特に独法化をしたのですから、国内だけではなく、国際的にも打って出るぐらいの研究費を獲得していくなど、魅力的な組織だと思っておりますので、ここをもう少し詳しくお教えいただきたいです。</p> <p>また研修の内容なのですが、全国から、または地元からどれぐらいの医師が来ているのか、是非資料としてご提出いただければ、ますます充実した実績評価になるのではないのでしょうか。</p> <p>全国的に見ても医療の面では、岡山県精神科医療センターの名前はとどろいてますので、今後さらに発展させることを考えますと、これだけの患者さんが利用されておりますので、患者さんの長期予後調査ですとか、発症予防の調査、これは岡山県下の精神科医の質の高さにも依存しておるのですけれども、是非、少しずつでもかまいませんので、臨床研究部のようなものをつくり、将来的には研究所として文部科学省から連携大学院として認められるような発展形をお考えいただければ、大学も含めいろいろな所からオファーが来るのではないかと思います。</p>	<p>○事務局 今回事務局で作成素案ということで、研究、研修といったことについては、細かく精査するところまでの能力は正直持ち合わせてはおりません。</p> <p>しかしながら客観的にみて、例えば一般病院ではなかなか難しい厚生労働科学研究に率先して取り組んでいただいているということも踏まえまして、事務局素案について自己評価にあわせて4点を付けさせていただきます。</p> <p>研修につきましても同様に、近年医師不足の中で研修生の受け入れを確保をしているということで、評価させていただきます。</p> <p>詳細につきましては独法の方から、できるものについては説明していただけたらと思います。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 研究、研修というところは、法人の弱いところで全体の比重として見ても低い部分ではあります。ただ、将来的にはここをしっかりとやっていかないと、きちんとした独法にはならないだろうということで、大学との連携を十二分にできて初めて満点になるのではないかなと考えています。</p> <p>厚生労働科学研究も、以前は全くありませんでしたが、現在まで合計2億以上の、年度いけば今年度が最終年度で3千万円程度の費用を頂いてしております。</p> <p>研修についてですが、県外からは、児童思春期病棟、司法病棟に県外からしょっちゅう研修の方が来られています。</p>

財務内容の改善について、特筆すべき項目の箇所、及び最小項目別のところについての書きぶりについて事務局案が示されておりますが、こここのところはどうでしょうか。

評価委員会として2年連続数値は下がっていることについてはチェックしておく必要はありますが、それは放漫経営ではなく、戦略的な意図のもとにされているということですが、ここをどのように織り込むかということを考える必要があります。

医療は完全な自由経済の中でしていくのではなく、医療政策の環境の変化に対応しながらしていくという難しさがありますね。

それから海外での、特にロンドンでの研修には毎年、医師、コメディカルが出て行っています。

まだまだ病院として必要な人については、必要な研修を海外で受けることができるよう病院が費用を負担することを考えておまして、それについては近々現実できるようにしたいと考えています。

いずれにしても研究については大学とタイアップしないととてもできることではありません。今のところ皆実務で忙殺されている中、研究をしていくというのは大変な作業でして十分に出来ているとは私自身はあまり思っていないですが、今後していく余地はあると思います。

○岡山県精神科医療センター

病院からよろしいでしょうか。

最小項目別のところの書き方についてはこれで問題はないかなと思います。評価を4を3にするということは、県民感情からすれば妥当かと思えます。やはり数値が下がったのだから評価もそれに併せて下げるというのは分かりやすい。

ただ、全体の方については、全国的な状況からみれば極めて優良ではあるがといったニュアンスを一言入れていただければ、病院としては気持ちがすっきりしますけれども。

これは将来必ず取り返すつもりでおりますけれども、これは国の方針によって変わります。医療は公定価格で決められていきますので、その中で他科に比べて精神科は圧倒的に低い点数の中で戦っております。

経営状況については、医業収支比率は100%以下でも、経常収支比率は100%を切らない、これを必ず守りながらも将来に備えておき、良くなっていけば医業収支も100%を大きく越えるようにしていくよう経営をしていくことが、経営者としての信念ではないかと考えております。

○岡山県精神科医療センター

医業収益と経常収益の話がでたので、県の方がいる中でお話しはしにくいのですが、21年度、22年度の運営費負担金の繰入金について、県の事情により収益的部分について県の本来の繰り入れ額に対して1割カットをされている、また前回お話ししました共済の追加費用の負担のダブルでおそってきています。

こちらとしては、そういう後出しで負担が増えていくような厳しい環境の中で頑張ってきている、これだけは理解していただければと思います。

○岡山県精神科医療センター

運営費負担金のカットについてですが、県の財政状況も厳しいということで、かつて厳しい時期に、独法化前の話ですが、繰出金についても1割カットを飲まされたことがあります。

運営費負担金のこれ以上のカットは実施しないで欲しいということ、もし評価委員会の意見としていただければいいと思います、そういう思いはあります。

○事務局

5ページの特筆すべき項目の表記については「良好な水準を維持しているものの」という文言を加えるという方向で検討をさせて頂き、次回の評価委員会で提示させていただきたいと考えております。

20ページの疾病を正しく理解するための支援プログラムを充実させる実施状況について児童思春期入院棟での家族教室、茶話会などの取組が挙げられていますが、家族が病気への理解を深めることは、とても大切なことだと思います。

その他の病棟では同様のことを実施されているのか、もし行われていないのであれば今後の計画について教えていただければと思います。

あと、外来患者の日中活動の支援、就労支援への取組等については、どのようになっておりますでしょうか。

今、おっしゃられたような取組は非常に大切なことだと思います。

ただ、自宅へ引きこもっている方で、通院のときだけ病院に出てくる、こういった方への包括的な支援をコーディネートしていくことが今後求められてくのではないのでしょうか。

資金計画のところで、投資活動による収入が1億あがってきておるのですが、これはなにか理由があるのでしょうか。

○岡山県精神科医療センター

家族に対する支援につきましては、他の病棟でも定期的に家族ミーティングを実施しております、特に救急期の病棟については、患者さんの状態が急変することから家族のケアが一層大切になっていきますので、定期的に少人数で主治医や専門の職員を中心しております。

依存症のプログラムについても家族の理解が大切となりますので、同様に家族を交えた取組を実施しております。

○岡山県精神科医療センター

外来患者の就労支援については、デイケアをダウンサイズしていくなかで、A型B型の就労事業所と協力し、また発達障害支援センター等のご助言を頂きながら、なんとかして外来患者の方が社会参加できるように取り組んでおります。

○岡山県精神科医療センター

病院の近くにNPO法人が2つございまして、そこに委託をする形で、院内の清掃等に20名ぐらいの外来患者さんに携わっていただいております。

また病院内の喫茶コーナーについて同様の取組を実施しております。

○岡山県精神科医療センター

これは地域連携室に専門の人を雇うための人件費を十二分に投入していく必要があり、そうすると経営状況がどうしても悪化してしまいますので、そこを見極めながら判断していく必要があります。

病院にも出てこられない方、この方達に手が届くようにしたい、これは私の願いでもあり、ここまでは必ずしたいと決意しているところでもあります。

ただそのためにはやはり収入を増やさないとはいけません。今のままではとても無理ですね。

○岡山県精神科医療センター

これは、預金という方法で全て資金を持っておくのはリスク分散ができていないという観点からむしろ危ないのではないかと指摘が理事会でありまして、預金の一部を国債等の投資に充てたということでございます。

(2) 次期中期目標（素案）について

委員間の率直かつ忌たんのない意見交換を図るため、非公開により議事を進行した。

(3) その他

今後の日程について確認。挨拶等